

公開討論

3氏が舌戦



川勝氏について語る川勝氏
=富士市の市交流プラザ



県のビジョンについて
話す広瀬氏=同所



雇用問題などで持論を展開する
島津氏=同所

知事 '13選

知事選(30日告示、6月16日投票)の立候補予定者公開討論会(日本青年会議所東海地区静岡ブロック協議会主催)が20日夜、富士市の市交流プラザで開かれた。出馬する現職の川勝平太氏(64)、自

民党県連が推薦する元多摩大教授の広瀬一郎氏(57)、共産党県委員副委員長の島津幸広氏(56)の3人が顔をそろえ、今の県政や今後4年間のビジョンについて持論を展開した。

川勝氏は「もともと防災先進県だった静岡県を、さらに強くしていく。一方で富士山が世界文化

遺産になるといふ朗報が入ってきた。日本の国土の中心は富士山にあり、いままさに「ポスト東京」の時代に入りつつある。

この地域で、日本の中心性というものを發揮していく、広瀬氏は「静岡は素晴らしい豊かさを生かされてない。なぜか。それは情報戦略がな

す、こつとした脅威からしつかりと暮らして経済を守る。大事なものは国にしっかりとものを言う姿勢だ。それと同時に県内の雇用と仕事を守っていく

地域経済・雇用対策について川勝氏は「まず県の農林水産業の復活に力を入れる。さらにファルマバレー、健康産業では3千億円以上の生産額を

「東部に限らず農林漁業を基幹産業にし、応援していくことが非常に大事。雇用の7割を支えている中小企業を直接応援を造らなければいけない。これは富士山の麓に

防炎対策・災害支援に「健康になりやすい」イメージを生かす、広瀬氏は「ローカルレベルでの富士・伊豆タボス会議で政治的な平和を語る

川勝氏 農林水産業復活に力 広瀬氏 伊豆にサッカー場を 島津氏 雇用を支え医療充実

いことに尽きる。マーケット・ヒロセとして、県というビジネス組織をうまく稼働させて県外発信の道筋をつけると同時に、静岡を人材育成の先進県にしたい、島津氏は「国のいろいろな政治の国民にこめや県民いじめ、あるいは平和を脅かす、三層構造の情報流通をいすべし」と述べた。

富士山の世界文化遺産登録や東部地域の経済活性化について、川勝氏は「富士山がなぜ世界遺産なのか説明するセンターを造らなければいけない。これは富士山の麓にあるのが望ましい」「東部全域、富士山の麓、さらに伊豆半島を入れた「健康になりやすい」イメージを生かす」、広瀬氏は「ローカルレベルでの富士・伊豆タボス会議で政治的な平和を語る一方で、ビジネスになげたい」「伊豆の地にサッカーグラウンドを造りJリーグのオフ合宿など、子どもや女子、若者のスポーツメッカにした